



対日理解促進交流プログラム KAKEHASHI Project

「対日理解促進交流プログラム」は、外務省が行う事業で、(財)日本国際協力センター (JICE) が企画・実施しています。(1) 日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、将来、各界で活躍が期待される優秀な人材を招へい・派遣し、我が国の政治、社会、歴史及び外交政策に関する理解促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘することで、我が国の外交基盤を拡充する、(2) 被招へい者・被派遣者に、日本の外交姿勢、日本の魅力等を積極的に発信してもらい、国際社会における対日イメージ向上や日本への持続的な関心の増進に寄与することなどを目的としています。

この「対日理解促進交流プログラム」の中で、KAKEHASHI Project は特に北米地域を対象とした大学院生・大学生・高校生による交流事業で、この度、徳島大学は四国で初めて選定されました。今回の事業では本学からは 23 名の学生 (学部生 15 名、大学院生 8 名) が米国ニューヨークへ



コロンビア大学視察 佐賀大と一緒に



LGCC での阿波踊り

派遣されました。また、本学に加え、佐賀大学、沖縄県立浦添高等学校、同県立普天間高等学校からも高校生・大学生・大学院生が派遣され、引率者 6 名を含む合計 75 名の派遣団となりました。

ニューヨーク滞在中には、(1) 在ニューヨーク日本国総領事館訪問および国連本部ツアーへの参加、(2) La Guardia Community College (LGCC) との文化交流、(3) コロンビア大学キャンパスツアー、(4) Phillipsburg Manor ツアーと市内視察、(5) ニューヨーク太鼓愛好会との阿波踊りコラボ、(6) 成果報告会などの活動を行いました。今回の訪問のメインであった LGCC での文化交流では、佐賀大学、徳島大学の代表者による学校紹介および両大学による日本 (佐賀・徳島) 文化紹介が行われました。本学学生は、パワーポイントを用いて、アニメ、百人一首など日本文化や、藍染、スタチなど徳島の特産について紹介し、阿波踊りの伝統・歴史に関する説明を行いました。その後、LGCC で日本語を勉強している学生を含む約 50 名の参加者を含め、全員で阿波踊りを楽しみました。

今後は、今回参加した本学学生が様々な国際交流イベントなどに積極的に参加し、将来は国際的な舞台で活躍できる人材となってもらいたいと期待しています。



国連本部前にて

国際センターサマースクール「徳島であおう」

2015年8月4日(火)から12日(水)まで、本学の交流協定校を含む6か国10大学からの学部学生40名を対象に、国際センターサマースクール「徳島であおう」を開催しました。中国(大連理工大学、吉林大学、北京航空航天大学)、韓国(韓国海洋大学校)、台湾(国立嘉義大学)、インドネシア(ハントウアー大学、ガジャマダ大学)、マレーシア(マレーシア国民大学)、スウェーデン(ルンド大学)で日本語、経済・経営、看護などを学ぶ学生



全体での記念写真

を対象に、徳島大学の紹介、常三島・蔵本地区の学部訪問をはじめ、茶道・華道、藍染などの日本文化体験、四国放送・徳島新聞ならびに大塚製薬・市岡製菓の企業見学などを行いました。参加した学生からは、「日本文化を直接体験することができて良かった」、「徳島大学で将来勉強したいと思った」などの感想を得ることができ、国際交流プログラムとして高い成果を上げることができました。

また、今回のサマースクールでは、(1) 文部科学省留学生交流拠点整備事業「とくしま異文化キャラバン隊」とのコラボレーションによる「徳島まち歩き」、(2) 共通教育「国際交流の扉を拓く」との連動、(3) 徳島大学医歯薬

学研究部生体栄養学講座二川教授による特別講演(「私の宇宙実験:筋(きん)に対する無重力の影響」といった新しい取り組みを行いました。本サマースクールを「とくしま異文化キャラバン隊」や「国際交流の扉を拓く」と効果的にコラボさせることで、本学日本人学生がより積極的に学内国際交流イベントに参加してくれるようになり、本学学生の国際化という点で非常に高い効果がありました。また、二川教授の講演に関しては、40名のサマースクール参加者に加えて本学学生も聴講に来ており、全員が非常に高い関心を持って講義を受けていました。



人形浄瑠璃体験

本学が提供しているサマースクールは大学院生を対象としている一方、国際センターが提供するサマースクールは学部生を対象としており、今後、本プログラムにより海外からの交換留学生や大学院進学者を増加させることができると期待しています。



常三島 研究室訪問



市岡製菓訪問



大塚製菓訪問

国際センター 最近の活動

日本語教育関連

日本語研修コース（1学期で日本語初級をカバーする集中型コース）の前期クラスが9月11日に終了しました。後期クラスは10月8日に始まり、2016年2月26日に修了式を予定しています。7か国8名の学生が日本語学習を行っています。全学日本語コース（週2回のレベル別コース）の前期クラスは初級から中級まで8クラスが開講され、45人が履修しました。後期は常三島と蔵本で7クラスが開講されています。学部留学生と交換留学生を主な対象とした共通教育「日本語」「日本事情」のクラスは、前期・後期共に6つ開講されています。また、日本語教員養成のためのクラスが総合科学部で開講されており、国際センターの教員が「日本語教授法Ⅰ」（前期）、「日本語教授法Ⅱ」と「日本語教材研究」（後期）を担当しています。



地域創生・国際交流会館での授業

地域創生・国際交流会館3階の共用室で「日本語研修コース」を実施しています。

留学生交流拠点整備事業：留学生との交流による多文化共生のまちづくり

本事業も最終年度を迎えました。10月2日には、常三島キャンパスに新設された地域創生・国際交流会館5階のフューチャーセンターにて、第2回連絡会を開催しました。ここではPLAN1の市内を中心に活動する組織の代表ら約25名が集まり、これまでの活動を振り返り、連携を深めさらに来年度以降の展開を考える機会を持ちました。今後は、10月の美波町日和佐の祭り支援(PPLAN2)、12月の美馬市脇町劇場での「まほろば国際プロジェクト(PPLAN3)」、1月23日のフォーラム開催と提言の作成(PPLAN4)を予定しています。今後も徳島を舞台に留学生と地域の人々を結ぶ活動を続け、これらの成果を国内外へ発信し、新たな徳島型の「多文化共生のまちづくり」に貢献します。



美波町日和佐の祭り支援

同窓会関連：徳島大学卒業留学生同窓会（ベトナム）設立

2015年3月14日、本学では6番目の海外卒業留学生同窓会「徳島大学卒業留学生同窓会（ベトナム）」をハノイで設立し、そのための式典を開催しました。設立式典にはベトナム出身の本学卒業・修了生、外国人研究者など約40人が集まり、本学からは香川学長を始め10数人の関係者が参加しました。

ベトナムに関しては、今後は同留学生同窓会からの推薦制度や日本語学校を対象とした本学への渡日前入学制度を通じて同国からの留学生を増加させる計画です。



ベトナム同窓会 設立記念式典にて

「料理を通して国際交流」イベント開催

国際センター・国際課の移転を記念して、11月14日（土）、地域創生・国際交流会館1階において、本学外国人留学生及び日本人学生と地域住民の方々が、それぞれの国の料理を紹介し多文化を理解するとともに、様々な文化背景を持つ人たちと交流する「世界の料理を通して国際交流」を開催しました。

交流会では、冒頭、インドネシアの留学生よりハラルフードについて詳しく説明があり、参加者全員でハラルフードを試食しました。そして70人を超える参加者たちは、持ち寄った各国の料理を食べながらお互いの文化について話したりして、楽しい雰囲気の中、交流を深めることができました。



ハラルフードのコーナーにて

多文化体験交流会

毎年、徳島大学祭に併せて開催されている「多文化体験交流会」が、今年度も11月30日（金）午後6時から工業会館2階にて開催されました。今回は、家族連れの留学生、日本人学生、地域の方々に加え、KAKEHASHI Projectに参加した日本人学生が多く参加しました。阿波踊りのよしこのに合わせて留学生、地域の方々と一緒に阿波踊りを楽しみました。

その他、スウェーデンとマレーシアからの留学生によるパフォーマンスなども披露され、とても活気ある交流会となりました。



KAKEHASHI 学生阿波踊り



留学生による演奏

新入留学生ガイダンス

4月・10月に入学してくる新入留学生に対する学修・生活ガイダンスを行いました。今年度は、前期に入学した留学生に対しては4月30日（木）と5月1日（金）に、各々常三島地区と蔵本地区にて、後期に入学した留学生に対しては10月16日（金）と10月19日（月）に、同じく常三島地区と蔵本地区にてガイダンスを行いました。



蔵本ガイダンス

徳島西署・東署の協力を得てガイダンスを実施し、学内外での安全に

関すること、自転車やバイク・車に関する注意事項、各種奨学金や学修に関する注意事項などについて説明を行いました。10月に開催した2回のガイダンスでは、本学で学ぶ全留学生に参加を呼びかけ、新しく施行される「マイナンバー制度」に関する説明、ならびに飲酒運転禁止を含む基本的な交通ルールの順守に関する説明を行いました。



常三島ガイダンス

留学報告会（蔵本 医学部）

11月11日、長井記念ホール（蔵本キャンパス）にて、「平成27年度医学部海外短期留学合同報告会」を開催しました。

本報告会は、海外の学術交流協定校へ留学した医学部の学生が、研究成果を発表するとともに、海外で自ら体験したことを教員や学生に報告することにより、医学部のグローバル化に寄与し、ひいては本学の国際化を促進させることを目的として、平成23年度から毎年開催しています。

報告会は、苛原稔医学部長の開会の挨拶で始まり、テキサス大学ヒューストン・ヘルスサイエンス・センター（米国）、ハノーバー医科大学（ドイツ）、ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学（フィンランド）の順で発表を行いました。



東さん（テキサス大学）

留学先での研究の成果に加えて、チャレンジすることの重要性、留学で得たことや見つかった課題、英語をはじめとする外国語でのコミュニケーションの難しさや大切さ等について貴重な体験が報告されました。また、留学前にしておくべきこととして、コミュニケーション・ツールとしての英語はもとより、医学英語を十分に学習しておくこと、更には、ハノーバー医科大学を目指す学生は、できればドイツ語も勉強しておくことが望ましい等、具体的なアドバイスがあり、参加した教員や学生は発表者の報告に熱心に耳を傾け、各発表後には活発な質疑応答もされました。

最後に、西村明儒教務委員長による閉会の挨拶があり、報告会を終了しました。



蔵本留学報告会

発表者：テキサス大学：西條 早希、東 沙葵、山崎 藍、林 篤志（医学科4年）

ハノーバー医科大学：金井 佑亮（医学科4年）、水口 誠人（医学科5年）

榎崎 遥子（栄養生命科学教育部 博士前期課程1年）

ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学：中野 真理、寺田 万莉奈、雪竹 彩花（保健学科2年）

日本留学フェア（ベトナム、インドネシア）

日本留学フェアが、2015年10月31日（土）、11月1日（日）にベトナム（31日ハノイ、1日ホーチミン）にて、11月14日（土）、15日（日）にインドネシア（14日スラバヤ、15日ジャカルタ）で開催され、本学も留学生獲得のためブースを出しました。ベトナムでの来場者数は、合計約2,800名で、本学ブースへの来訪者は、ハノイ30名、ホーチミン40名でした。インドネシアでの来場者数は、合計約5,300名で、本学ブースにはスラバヤで43名、ジャカルタで37名が訪れました。



インドネシア説明会



ベトナム説明会

ベトナムでは、現在本学で準備を進めている日本語学校を対象とした渡日前入学許可制度に関する質問が多く寄せられ、その関心の高さを肌で感じることができました。インドネシアでは、多くの高校生が保護者と共に会場に来ている姿が見受けられ、日本の学部留学に対する興味・関心が高いことが分かりました。

海外留学情報(トビタテ！留学JAPANなど)

2013年から始まった「トビタテ！留学JAPAN」(以降、「トビタテ」)ですが、2015年度には全国版第3期トビタテに4名(自然科学系、複合・融合人材コース2名、多様性人材コース2名)が、地域人材コースとして採択された「徳島県地域グローバル人材育成事業」に2名が本学から選出されました。学生の所属を見ると、第3期の自然科学系、複合・融合人材コースの2名は先端技術科学教育部と薬科学教育部に、多様性人材コースの2名は総合科学部に所属しており、地域人材コースにて派遣された学生2名は、それぞれ保健科学教育部と工学部に所属しています。

第4期トビタテ(2015年10月末メ切)には、本学から10名が自然科学系、複合・融合人材コース(4名)と多様性人材コース(6名)に申請しており、総合科学部3名、工学部2名、先端技術科学教育部2名、医学部1名、口腔科学教育部1名、保健科学教育部1名の学生らが願書を提出しました。できるだけ多くの学生がトビタテにより海外に留学してくれることを期待します。

トビタテ5つの特徴

- ① **多様な活動を支援** : アカデミックな留学だけでなく、ボランティアなどの実践活動もOK
- ② **留学プランを自分で設計** : 自らの手で留学を組み立てることができます。
- ③ **手厚い支援** : 手厚い奨学金(月額12~20万円)、渡航費(10~20万円)、授業料(実費で上限60万円まで)などが給付されます。返済の必要はありません。
- ④ **留学前事前事後研修が充実** : 各界のリーダーから直接指導を受けることができ、将来、日本のリーダーとなり得る人々とのネットワークを作ることができます。
- ⑤ **グローバル人材コミュニティ** : 参加者や協賛企業、世界で活躍するグローバル人材が集う「トビタテ！留学JAPAN」独自のコミュニティに参加できます。

トビタテ留学体験記

カンボジア医療支援

井上 琢斗 (先端技術科学教育部 物質生命システム工学専攻 博士前期課程2年)



「トビタテ！留学JAPAN」の1期生としてカンボジアで約1年間の医療支援を行ってきました、先端技術科学教育部物質生命システム工学専攻の井上と申します。

トビタテは私にとって非常に大きな影響をもつ制度です。この制度の特徴のひとつとして、奨学生同士のコミュニティが挙げられます。留学前からコミュニティが発足し、帰国後も様々な形で利用可能となっています。この会の優れたところは、普段会うことのない人々と出会い、

議論できるところにあると考えています。そこには全国から集まる、自分とは学年も専門分野も異なる人々がいます。考え方も価値観もまるで違うからこそ、そこで交わされる対話は示唆に富み、新たな気づきを与えてくれます。

私はゼロからプロジェクトを企画し実行するチャレンジの場として留学を決意しました。留学期間中は困難も数多くありましたが、プロジェクトを遂行できたのは「トビタテ！留学JAPAN」のコミュニティがあったからこそであると感じています。SNSで同期や他期生の活躍を見ることで刺激を受けることもあれば、悩みを共有することもありました。私の場合、渡航先の都市に他のトビタテ生が数名いたので、定期的に互いの進捗や問題などについて話していました。このコミュニティがあったからこそ、そして彼らと対話できたからこそ、数多くの壁を乗り越えることができたと思います。

1年の留学から帰国した今、コミュニティに関わる人々のお蔭で、視点・視野・視座が向上したことを感じています。今後は留学で得た学びを活かし、本制度のさらなる飛躍に貢献できればと思っています。

トビタテ！留学 JAPAN 帰国報告会

2015年11月17日（木）午後5時より、地域創生・国際交流会館3階301共用室にて、「トビタテ！留学 JAPAN 帰国報告会」を開催しました。トビタテ第一期生として本学からカンボジアに医療支援のために留学した井上琢斗さん（前項の体験談を参照）が自身の留学体験について報告を行い、高石理事、吉田理事、細井国際センター長、河村工学部長を含む多数の聴衆が発表に聞き入っていました。

発表の中で様々な体験や気づきについて触れられていましたが、その中でも特に、「多くの困難があるかもしれないけど、そこに飛び込むことで何かを変えることができる」という言葉には、多くの人が感銘を受けていました。

第5期トビタテの学内募集は、2016年2月下旬までとなる予定です。



国際センター 短期海外研修

国際センターでは、夏期・春期短期海外研修を実施しており、2015年夏期には(1)南イリノイ大学(アメリカ)、(2)モナシュ大学(オーストラリア)、(3)慶北大学(韓国)の3カ所に本学学生を派遣しました。昨年度は、ガジャマダ大学(インドネシア)にも派遣しました。研修の日程および参加人数は、以下のとおりです。

- 南イリノイ大学(アメリカ) 2015年8月15日～9月13日
参加者数：3名(医学部1名、工学部1名、総合科学部1名)
- モナシュ大学(オーストラリア) 2015年8月29日～9月27日
参加者数：13名(工学部7名、総合科学部3名、先端技術科学教育部2名、医学部1名)
- 慶北大学(韓国) 2015年8月10日～8月22日
参加者数：4名(工学部2名、医学部2名)



モナシュ大学研修



南イリノイ大学研修

春期短期海外研修は、2016年2月から3月にかけてモナシュ大学(オーストラリア)とオークランド大学(ニュージーランド)に学生を派遣するための準備を行っています。研修の日程および参加予定人数は、以下のとおりです。

- オークランド大学(ニュージーランド) 2016年2月20日～3月19日
参加者数：4名(総合科学部3名、工学部1名)
- モナシュ大学(オーストラリア) 2016年2月25日～3月25日
参加者数：12名(工学部6名、総合科学部3名、歯学部1名、医学部1名、薬学部1名) *奈良県立大学4名と共同で参加



慶北大学研修

例年国際センターが主催する形で開催している、「徳島大学国際展開推進シンポジウム 母国で振り返る私の徳島大学留学生時代」ですが、2015年度は、以下の日時で開催致します。

日時：2016年3月10日(火) 15時開始(予定)

場所：阿波観光ホテル (<http://www.awakan.jp/>)

海外で活躍する卒業留学生を徳島に招聘し、徳島大学での留学時代や現在の仕事について講演していただきます。同シンポジウム終了後、同ホテルにて「卒業留学生を祝う会」を予定しております。



国際センター・国際課の移転と今後のイベント



2015年10月末、徳島大学国際センターと国際課は、常三島に新設された「地域創生・国際交流会館」(Global Communication Hall)4階に移転しました。移転に伴い、連絡先も以下のように変更となりました。

〒770-8502

徳島県徳島市南常三島町1-1

徳島大学地域創生・国際交流会館4階

TEL. 088-656-7491

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp>

センター長 Director	細井 和雄 KAZUO HOSOI	副学長 (国際担当) Vice President (International Affairs)	khosoi@tokushima-u.ac.jp	
交流部門 International Exchange Division	金 成海 CHENGHAI JIN	教授 副センター長 Professor, Vice Director	kin@tokushima-u.ac.jp	088-656-7543 (82-7543)
	坂田 浩 HIROSHI SAKATA	准教授 Associate Professor	kobayashi@tokushima-u.ac.jp	088-656-7199 (82-7199)
教育部門 Education Division	Gehrtz 三隅友子 TOMOKO Gehrtz MISUMI	教授 Professor	misumi@tokushima-u.ac.jp	088-656-7120 (82-7120)
	橋本 智 SATOSHI HASHIMOTO	准教授 Associate Professor	hashimoto@tokushima-u.ac.jp	088-656-9873 (82-9873)
国際協力部門 International Cooperation Division	内藤 毅 TAKESHI NAITO	特任教授 Designated Professor	naito.takeshi@tokushima-u.ac.jp	088-634-6443 (83-7399)
国際企画係 International Planning Section			kokukikakuk@tokushima-u.ac.jp	088-656-7491 (82-7202)
国際交流係 International Exchange Section			ryugakuk@tokushima-u.ac.jp	088-656-7079 (82-7079)
国際課蔵本室 Branch Office in Kuramoto			ryugakuk@tokushima-u.ac.jp	088-633-7398 (83-7398)
国際交流会館 International House in Kitajima Town			-	088-698-1244

新任教員の紹介



2015年4月より、国際センターに「国際協力部門」が新設され、特任教授が着任しました。

内藤 毅 (ないとう たけし) 国際協力部門 特任教授

現在まで、眼科医としてネパールなどで国際協力を行ってきました。今までの経験を生かして、さらに幅広い活動を行っていきたくと考えております。これからもよろしくお願い致します。

発行 徳島大学国際センター

住所 徳島県徳島市南常三島町1-1 徳島大学地域創生・国際交流会館4階

Tel.088-656-7491 <http://www.isc.tokushima-u.ac.jp>